

# シカを群れごと捕獲する技術

## 一 はじめに

近年、県内で二ホンシカ（以下シカ）による農作物被害が増えています。県内のシカの農作物被害額は平成21年度をピークに一時6千万円程度に減少しましたが、令和6年度には再び8千一百万円となり、増加に転じています（図1）。特に西部地域ではこれまでなかったウンシュウミカンの枝葉の被害などが見られ、浜松市では果樹被害額が増加傾向にあります。これまで被害防止として侵入防止柵の設置と捕獲などの対策を推進してきました。特に侵入防止柵で加害を制限した上で周囲の加害獣を捕獲する方法は被害防止効果が高いと報告されています。

シカの捕獲には一般的に「くくりわな」を用いますが、シカは成獣のメスと子供からなる2〜3頭の群れで行動することが多いので、単体捕獲が中心の「くくりわな」では群れの一部の捕獲に留まります。捕獲できなかつた個体は、わなに對する警戒心が高まるため、捕獲しにくくなることが課題となっています。またシカの行動範囲はそれほど広くないので、被害が出た園地では、同じ個体により繰り返し被害がみられることが多くあります。そのため、被害地周辺で捕り逃しがあると捕獲が難しい個体が繁殖して数を増やすので被害がいつまでもなくならないことにつながります。

そこで、加害シカを一度に群れごと捕獲する方法を試みました。

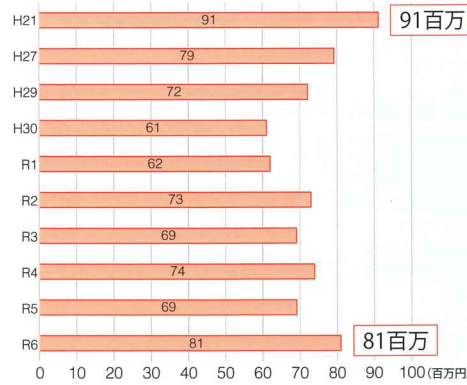


図1 シカの県内農作物被害額の推移

## 二 囲いわなによる群れ捕獲の検討

囲いわなは、野生動物の群れを捕獲する手法として一般的ですが、囲いわなの多くはICTなどを活用し、高額であることが課題です。そこで、従来より低コストな囲いわなを試作し捕獲を試みました。

試験は令和6年12月〜令和7年5月に島田市にて実施しました。囲いわなは警戒されやすいため既存のネット柵資材を活用し幅約3m奥行き約8mとし、支柱を約2m間隔で打ち込みネットを周囲に掛け、ネットと支柱を結束しました。入り口の扉は「ダンポール」というガラス繊維でできた、柔軟性があるポールを組み合わせて作成しました。餌は乾燥させた牧草を圧縮したアルファルファヘイキューブ（以下AH）を用い、成獣が「囲いわな」の中に入るまで十分な餌付けを実施しました。餌付けができたところで餌のAHをビニール袋に入れ穴を開け、支柱に固定しました。ロープで扉を引っ張り、

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所  
森林・林業研究センター  
上席研究員  
(現) 志太橋原農林事務所 主査  
神谷 健太

AH入りのビニール袋と繋ぎ、シカがくわえて引っ張るとロープにつながれた扉が閉まる仕組みを作りました。（図2）

その結果、成獣1頭と幼獣1頭の計2頭を同時に捕獲することに成功しました（図3）。試作した囲いわ

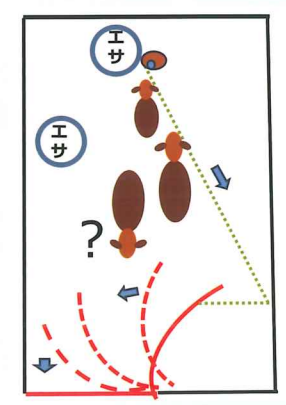


図2 囲いわな概略図



| 年齢 | 性別 | 頭胴長 (cm) | 体高 (cm) | 体重 (kg) |
|----|----|----------|---------|---------|
| 成獣 | メス | 143      | 80      | 48      |
| 幼獣 | メス | 105      | 70      | 26      |

図3 囲いわなで捕獲されたシカと捕獲個体の概要

なを使うことで、群れの一部しか捕らえることができなかった「くくりわな」の課題を解決できる可能性が示されました。一方で、囲いわなへの警戒心を解くため多くの時間を要しました。また扉の設置についても確実に閉じるための調整作業が容易ではありませんでした。特に警戒心の低減は捕獲効率に直結する課題であることから、警戒心を取り除くより高い誘引力の餌が必要と考え、餌の嗜好性試験を実施しました。

## 三 嗜好性の高い誘引餌の検討

シカの誘引餌としてAHや鉱塩が一般的に使われますが、場所や時期によって嗜好性が低いという報告もあります。シカは普段、雑草や木の新芽などを食べていますが、栄養豊富な農作物を好むことから、家畜用の牧草の被害が大きく、牧草地周辺の捕獲も多くなっています。そこで牧草の餌としての嗜好性を調査しました。

試験は近年枝葉への被害の多い、浜松市内の引佐町及び三ヶ日町のウンシュウミカン園地周辺で実施しました。比較する餌は、「ウンシュウミカン枝葉」、牧草の一種であるエン麦と、イタリアンライグラスいずれも生葉の状態のもの、AH、鉱塩の5種類を用いました。「ウンシュウミカン枝葉」は10〜20cm程度に揃えた枝葉、牧草はプラスチックケースで20cm程度まで育てたものを使用しました。

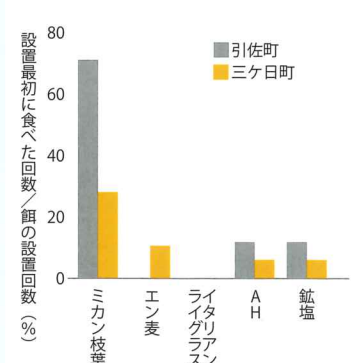


図4 5種の餌の設置後最初に食べられた割合

各餌は令和7年10月〜12月までの間、週に1〜3回、2m間隔で設置し、摂食行動を自動撮影カメラで記録しました。最初に餌が摂食された回数及び餌を設置した後の総摂食回数を指標として嗜好性を評価しました。

その結果、引佐町及び三ヶ日町のいずれの試験地においても餌の設置後に最初に摂食された割合は「ウンシュウミカン枝葉」が最も多い結果でした（図4）。また、摂食された総回数の割合においても「ウンシュウミカン枝葉」が最も多いという結果であり、継続的に利用される傾向が確認されました（図5、6）。

今回の結果からは、生の牧草に対する高い嗜好性は確認されませんでした。したが、ウンシュウミカン園地周辺

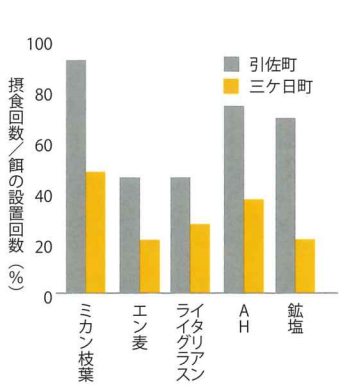


図5 5種の餌の設置後の摂食割合



図6 ウンシュウミカンの枝葉を食べるシカ

に出没するシカにとって、「ウンシュウミカン枝葉」は嗜好性が高く、誘引餌として有効である可能性が示されました。

## 四 おわりに

今回の研究により、既存資材を活用した囲いわなによって群れの複数個体を同時に捕獲できる可能性が示されました。また、ウンシュウミカン園地周辺でウンシュウミカン枝葉の嗜好性が高いことも確認されました。侵入防止柵とあわせて、群れの捕獲を進めることで、加害個体を効

率よく除去でき、被害の軽減につながることを期待されます。しかし、今回の囲いわなによる捕獲では、囲いわなへの警戒心により捕獲までに時間を要したことや、扉の確実な作動のための調整が容易ではないことが課題として明らかになりました。今後は、警戒心を上回る誘引効果が期待される「ウンシュウミカン枝葉」などを活用し、捕獲効率の向上を図るとともに、簡易で確実に作動する扉構造の改良を進め、実用化に向けた技術の高度化を図ってまいります。シカの被害は県西部地域でも増加傾向にあり、農地周辺の加害個体のこれ以上の繁殖を防ぐために早急な対策が求められています。ウンシュウミカン産地である三ヶ日町では生産者が組織する三ヶ日町有害鳥獣除対策協議会により捕獲が開始され、令和6年度には「くくりわな」で10頭が捕獲されました。令和7年度は更なる増加が見込まれています。今後も、群れごと捕獲など対策を強化し、持続可能な農業生産を支える鳥獣被害対策の推進に取り組んでまいります。

浜松市浜名区根堅254218  
静岡県農林技術研究所  
森林・林業研究センター  
Mail: forest-kenyu@pref.shizuoka.lg.jp  
TEL: 053-583-3160